卒業論文

インターナショナルワークキャンプの生み出す若者の意識変化と新しい共同性

2014 年度入学
九州大学 文学部 人文学科 人間科学コース
社会学・地域福祉社会学専門分野

2018 年 1 月　提出

要約

近年、日本では若者によるボランティア活動が全世界で展開されている。本論文では、若者のボランティア活動の中でも、現地に実際に住み込み住民と共同生活を行い（キャンプ）活動地の住民たちと共に働く（ワーク）、ワークキャンプというボランティア活動の形態に焦点を当てている。これまで、ボランティア活動を対象とした研究は多数されてきたものの、ワークキャンプのみに焦点を当てた先行研究は非常に少ない。

そこで、「Friends International Work Camp」という日本でワークキャンプ黎明期である第二次世界大戦後から活動を行っている学生団体を研究対象とした。本論文では、3章まででこれまでのワークキャンプに対する考察と評価から、その課題と可能性を整理し、「Friends International Work Camp」が行っており、筆者自身も三回参加したフィリピンのレイテ島でのワークキャンプが、その特徴である共同性について分析するとともに、その活動に参加する前後で学生にどういう意識変化を与えているのかを、フィリピンキャンプの報告書と、参加者へのインタビュー調査をもとに分析した。これによって明らかになったのは以下の通りである。

一つ目は、共同性についてである。一般的にボランティア活動の参加者と現地住民は贈与―被贈与の関係を持ち、「支援する」立場のキャンプ参加者だが、学生団体特有の素人性により、必ずしもその構図が成り立たないことが分かった。それに伴い先進国の若者が、突然発展途上国の村に住み込み共同生活を営むという非日常的な祝祭間を持つ活動は、両者の間に一時的ではあるが対等で親密な共同性を生み出すことも明らかにした。この共同性は、これまでのボランティア活動のジレンマであった一方的な贈与を覆すこともあり、村人同市、または村人とボランティア活動者の相互扶助を活性化し、その活動をさらに活性化させる効果も秘めている。

2つ目は、若者の意識変化についてである。若者の参加動機については、具体的に将来のヴィジョンを持って参加している者や、自己成長のためや他者承認のためといった曖昧なものまで、多様な理由で参加していた。しかし、そのほとんどが、キャンプ参加後には、変わっていたかより具体化していた。これは、実際に現地の生活を目にしてこれまでの価値観が変わるとともに、潜在的に自分たちが「支援する側」であると思い込んでいたキャンプ参加者が彼らとの共同性を築いていく過程で、相互に関わり合う関係であることを自覚するためである。

キーワード：ワークキャンプ、共同性、承認欲求

目次

はじめに・・1
1　ボランティアとワークキャンプの歴史と現在
1.1　ワークキャンプとは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
1.2　ワークキャンプの広まり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
1.3　日本でのワークキャンプと「Friend International Work Camp」・・・・・・・・2
1.4　現在のワークキャンプ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
1.5　ワークキャンプのプロセス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

2　先行研究
2.1　ボランティア研究の分析方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
2.2　ボランティアの社会理論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
2.3　「ボランティア」と「ワークキャンプ」の今・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
2.4　ワークキャンプにおける「齟齬」と「分断」の可能性・・・・・・・・・・・・・7
2.4.1　ワークキャンプにおける「私たち」と「彼ら」・・・・・・・・・・・・・・・・7
2.4.2　自分探し・自己成長とワークキャンプ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
2.4.3　若者の他者承認欲求・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
2.4.4　若者の無知・独善性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
2.5　承認の再配分と「祝祭性」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

3　ワークキャンプの先行事例
3.1　FIWC の歴史からたどる「交流の家」建設とワークキャンプ・・・・・・・・・・・11
3.1.1　「交流の家」建設・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
3.1.2　ワークキャンプ批判と「根拠地」の概念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
3.1.3　現代におけるワークキャンプの意義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

3.2　東日本大震災における唐桑キャンプ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
3.2.1　唐桑キャンプの概要と「公共的な親密圏」・・・・・・・・・・・・・・・・・・
14
3.2.2　唐桑キャンプの理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
3.2.3　唐桑の人々と「つながり」の萌芽・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
3.2.4　「つながり」による現地の意識変化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
3.2.5　「つながり」概念の社会学的意味・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

3.3　中国ハンセン病快復村でのワークキャンプ・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
3.3.1　中国ハンセン病の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

3.3.2　「社会闘争」とワークキャンプの可能性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
3.3.3　マイノリティへの認知とその形態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
3.3.4　「文化コード」と「名づけの力」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
3.3.5　ワークキャンプにおける「公と私の円環」・・・・・・・・・・・・・・・・・20

4　調査概要
4.1　FIWC によるフィリピンキャンプの概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
4.2　調査方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
5　分析・考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23

おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31